



進修館だより 交流マップ

進修館だよりを通じて交流させていただいている皆様を、マップに掲載していく形でご紹介します！



■ 進修館のぶどうのオブジェ

宮代町を具現化した建物である進修館には、町の特産品である「ぶどう」をモチーフにしたオブジェがいくつもあります。その中でも注目なのが、コロネードのタイルとドアの取っ手。ぱっと見は気がつきにくい、密かなこだわりポイントです。

■ 町外・団体・サークルの皆様

- ・CAFE パロキア (久喜市菖蒲町)
- ・久喜市菖蒲文化会館アミーゴ (久喜市菖蒲町)
- ・珈琲パウエル (久喜市久喜)
- ・入間市文化創造アトリエAMIGO! (入間市仏子)
- ・象設計集団 東京事務所 (東京都狛江市)
- ・象設計集団 十勝事務所 (北海道河東郡音更町)
- ・沖縄県今帰仁村役場 (沖縄県国頭郡今帰仁村)
- ・今帰仁村歴史文化センター (沖縄県国頭郡今帰仁村)
- ・(一社)今帰仁村観光協会 (沖縄県国頭郡今帰仁村)
- ・古宇利島の駅 ソラハシ (沖縄県国頭郡今帰仁村)
- ・(株)国建 北部事務所 (沖縄県名護市宮里)
- ・森の交流館・十勝 (北海道帯広市)
- ・(株)ふれあいクラブ (宮代町宮代台)
- ・(株)彩和とらすとサービス (白岡市小久喜)
- ・杉戸町障がい者支援センター (杉戸町清地)
- ・日の出 (幸手市中)
- ・(株)あおば保険事務所 (春日部市中央)
- ・白田陽介税理士事務所 (久喜市久喜東)
- ・～語りと和菓の芸人衆～ かたりと (東京都北区)
- ・(株)カンパニーヒュッグ (春日部市上総田)
- ・(有)大城産業 (茨城県古河市)
- ・(有)今帰仁城 (茨城県古河市)
- ・(株)シェアリッチ株式会社 (茨城県古河市)
- ・L'AUTRE MAISON 西ノ洞 (群馬県館林市)

■ 進修館だよりで交流させていただいている自治会をご紹介します！ (50音順)

- | | | | | | | |
|----------|---------|--------------|-------------|------------|-----------|-----------|
| ・稲荷町町内会 | ・国納北 | ・新道第一町会 | ・中須地区 | ・姫宮北団地自治会 | ・宮代台自治会 | ・和戸1丁目町内会 |
| ・内野自治会 | ・国納南 | ・新道第2町会 | ・中寺地区自治会 | ・姫宮南団地自治会 | ・桃山台自治会 | ・和戸2丁目1 |
| ・笠原2丁目町会 | ・逆井地区 | ・辰新田町内会 | ・西原自治会 | ・藤巻根地区 | ・山崎地区 | ・和戸2丁目2区 |
| ・金原地区自治会 | ・桜木町 | ・中央第1町会 | ・東地区自治会 | ・弁天町 | ・柚ノ木1 | ・和戸3丁目 |
| ・川端一区自治会 | ・宿地区 | ・中央第2町会 | ・東桑原自治会第1地区 | ・宮代1丁目1町会 | ・柚ノ木二区自治会 | ・和戸4丁目1区 |
| ・川端二区自治会 | ・新中町会 | ・ディアコート宮代自治会 | ・東桑原自治会第2地区 | ・宮代1丁目第2町会 | ・若宮自治会 | ・和戸4丁目2区 |
| ・川端三区自治会 | ・新道三区町会 | ・道佛1区町会 | ・姫川一区自治会 | ・宮代学園台自治会 | | ・和戸5丁目地区 |
| | | ・道佛3区町内会 | ・姫川二区自治会 | | | |



Community Center Shinsyukan

進修館だより

2024
10月号

■ 10月号の目次

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 P: 表紙「コロネード」 | 6 P: 「まちの皆様インタビュー！」 |
| 2 P: 「地区自治会におじゃまします！」 | 「参加者募集！宮代町民俗舞踊連盟と踊ろう！」 |
| 3 P: 「ちょこっとコラム～思い出写真デジタル化～」 | 7 P: 「進修館のあんなこと、こんなこと」 |
| 4 P: 第3回「進修館をアートで彩る」 | 「“外”から再発見、進修館の魅力」 |
| 5 P: ヒュッグ アーティスト紹介: 井上大間さん | 8 P: 裏表紙「進修館だより交流マップ」 |
| 第1回「進修館ロビーコンサート」 | |

進修館だより 2024年10月号 (第43号) 第2版: 2024/10/01 発行

発行元: 宮代町立 コミュニティセンター進修館

(指定管理者: 特定非営利活動法人 MCAサポートセンター)

住所: 〒345-0822 埼玉県南埼玉郡宮代町笠原1-1-1 TEL: 0480-33-3846

URL: <https://www.shinsyukan.or.jp> E-mail: info@shinsyukan.or.jp



地区自治会におじゃまします！

このコーナーでは、宮代町内の地区・自治会の取り組みや地域の特色などをお届けいたします。

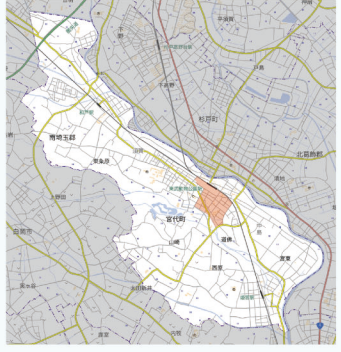
ちょこっとコラム

このコーナーは、読者の皆さまに楽しんでいただける様々な情報をお届けしています。

◆ 特別編：8町会 交流サロン「どんぐりクラブ」

自治会情報 [8町会連合会] 2023年4月1日現在

【構成】 8町会 全711世帯
笠原2丁目町会 98世帯
新道第一町会 96世帯
新道第2町会 65世帯
新道3区町会 110世帯
中央第1町会 80世帯
中央第2町会 71世帯
宮代1丁目1町会 121世帯
宮代1丁目第2町会 70世帯





【どんぐりクラブ楽譜】
オリジナル曲を地区で自作するなんて、何という地域力の高さ！みんなで歌うことで、会場には温かな一体感が生まれます。

宮代町内には、集会所などを会場としたサロンがたくさんあります。その中の1つ、東武動物公園駅西口にほど近い新道集会所で8町会連合会が開催している「交流サロン どんぐりクラブ」に参加してきました。

【地域の温かい居場所として】

どんぐりクラブは2014年9月に設立され、毎月第3月曜日に開催されています。「地域のみなさんを知ることから始まり、思い出を語りながら、共に生きる」を合言葉に楽しい時間を過ごしていらっしゃるということです。発足当初、サロンを開催すると毎回60名ほどの参加があり、会場の新道集会所はいつもすし詰め状態になるほどでしたが、コロナ禍で開催が難しい時期を超え、現在は20名前後の参加者があるとのこと。取材に伺った日は敬老の日になんだ特別開催日でしたが、20名ほどの参加がありました。会場に参加者が到着すると「〇〇さん、久しぶりだねえ。」「よく来てくれたねえ。元気そうだね。」など、スタッフの方々が一人一人に温かい声掛けをして席まで案内します。参加者の多くは女性ですが、男性も気兼ねなく過ごせるように席を確保するなど、さりげない配慮がうかがえました。みなさんが集まり席に着いたのを見計らって、「どんぐりクラブの

歌」というテーマソングを全員で歌うことからサロンが始まりました。この歌は、当時の地区役員やそのお孫さんが制作した完全オリジナル曲。サロンに集う楽しさや地域性がぎゅぎゅ詰まっております、参加者みんな歌うと「地域の温かい場所にいられたんだな」と、何とも言えない居心地のよさと一体感がありました。体操や早口言葉、歌などで体も気持ちも温まったところで、この日は敬老の日になんだ特別昼食会となりました。

【写真を通してふりがえる】

どんぐりクラブが開催されている新道集会所では、2016年に地域の小さな写真展「まちをアルバムにする」を開催しました。この写真展は、宮代町の町制施行60周年を機に「草の根で何かお祝いをしたい」という市民の方の声をを受けて進修館が地区・自治会と協力して実施したもので、地域の方々に自宅にある個人のアルバムを集会所に持ち寄っていただき、その写真をデジタルデータ化した後、それぞれの集会所にあった方法で展示するという取り組みです。実施に当たっては日本工業大学にも協力いただきました。会場では、写真を介してよみがえる思い出を地域の方々が懐かしみながら会話したり、「ばあばも子どもだった

ことがあるんだね」とお孫さんにびっくりされるほほえましい会話が聞こえてくるなど、会場にはとても温かい時間が流れていました。また、集会所が地域にとっての拠点であることを再確認することができました。この度の取材の際、当時新道集会所に展示した写真の一部を持参し、同じように展示させていただいたところ、参加者のみなさんにはとても喜んでいただきました。また、今回も写真を囲んで懐かしい会話が交わされているのを見て、改めて写真の持つ力を感じました。

【地域でひとりにしたくない】

どんぐりクラブを支えているのは地域のボランティアスタッフの方々です。この日も、会の進行や歌・体操指導にはじまり、お弁当の買い出しや会場設営など、細やかな心配りをしつつも手際よく作業されていました。スタッフの方にお話を伺うと、みなさん口々に「どんぐりクラブあることで、参加者の方はご自身が地域につながっていると感じていただけている」「地域でひとりにならないように、自宅にこもりがちな方にもっと来ていただきたい」とおっしゃいます。地域のコミュニティ活動の大切さとともに、地域だけで支えることの難しさも同時に実感しました。



【まちアル展示の様子】
8年前に集会所で開催した「まちをアルバムにする」の展示を再現。懐かしい写真を囲んで会話が弾んでいました。

◆ 大好評！「思い出写真をデジタル化！」

【実は…デジタル化は、あまり人気がない！】

タイトルで「大好評！」と謳っておきながらサブタイトルで「人気がない」と表記する矛盾（笑）。進修館で「思い出写真をデジタル化！」というサービスを始めてから約4ヶ月ほど経ちます。おかげさまで、サービス自体は好評で、ご依頼件数も上々です。「皆さんの生きた証が失われていくのは悲しい…」「古い写真やその思い出を後世に残したい」という想いで始めたサービスですので、ご利用いただけるのは本当に嬉しいです。

さて「好評なのに人気がない」とは如何に？についてですが、ご依頼のほとんどが「古い写真をデジタル化する」のではなく、「古い写真を綺麗にして再び印刷しなおす」つまり「紙→デジタル」ではなく「紙→紙」を希望されます。なので「サービスは好評だけどデジタル化は人気がない」ということなんです。

【ポイントは「修復とカラー化」】

このサービスは元々「写真（紙）はかさばるから、残念だけど捨ててしまおう」という方が多くいらっしゃったので、「であれば、デジタル化しませんか？」という形で始めました。ですが、皆さまにお渡しする形としては、別にデジタル化にこだわっているわけではありません。このサービスの一番のポイントは「写真の修復とカラー化」だと思いますので、その部分に着目して、ご依頼をいただければと思います。（ちなみに、補正作業する前に写真をデジタル化するので、結果としてデータが残る＝皆さんの生きた証が後世に継がれていきます。）

【とりあえず、ご相談ください】

古い写真の特徴として「色褪せている」「破れている」「にじみや酷い凹凸がある」「サイズが小さい」など、様々な劣化症状があります。ぱっと見て修復不可能と感じる写真でも、思いのほか修復できたりしますし、「アルバムのフィルムや、写真立てのガラスにくっついて剥がれない」といった場合でも、そのまま持参していただければ対応いたしますので、興味がある方は、とりあえずご相談ください。

思い出写真をデジタル化！～参考事例集～



破れがひどく、一部をセロハンテープで補修した写真

AIによる修復とカラー化

追加で技術者が修復

AIによる補修とカラー化。右側の方のカラー化がイマイチ。足付近の破れや色の再現もイマイチ。

AIで補いきれない箇所や色がおかしい部分を技術者が手作業で修復。



強めの色褪せと折目がついた写真。

AIによる修復とカラー化

追加で技術者が修復

AIによる補修とカラー化。肩の部分が壁と同化したり服色がまばらなど色再現が微妙。

技術者による修復。肩のラインを明確にし、服色の色も再現。御札の文字も判別できるように。



著しく色褪せた写真。全体が黄色くなっています。

AIによるカラー化

AIによるカラー化。補修なしでもここまで色再現されました。

とても小さく表情もわかりにくい写真。実寸大(36mmx24mm)

AIによるカラー化と拡大処理



これまでのご依頼で、劣化が激しくて修復できなかった写真は、全体の1割程度。10人を超えるような集合写真は、AIによる修復が難しい傾向にあります。

AIによる修復とカラー化

追加で技術者が修復

写真下部が破れてしまっています。また、右側の女の子のズボン付近に汚れている箇所があります。

AIで補修とカラー化。写真下部の破れはAIによる補修です。ズボン付近の補修は技術者によるもの。

進 修 館 N E W S

進修館オープンカレッジ「進修館をアートで彩る」第3回を開催しました！

進修館の設計理念や建物を大切に、コミュニティ醸成が図られるアートプロジェクトを生み出すことを目的に開催されている進修館オープンカレッジ「進修館をアートで彩る」。2024年9月14日その第3回目を開催し、参加者が企画したプロジェクトの公開プレゼンテーションを行いました。発表された企画はいずれも斬新で、進修館の魅力を存分に引き出すものばかりでした。企画を実施するために、これから企画者と進修館で詳細をつめていきます。どうぞお楽しみに！

「進修館オープンカレッジ」とは、様々な世代が定期的集まって、地域の課題や、やりたいことを話し合う場です。1つのテーマごとに複数回集まり、いろいろ語り合うことで新たな仲間を見つけたり、新たな活動を生み出したりすることを目的として開催しています。



公開プレゼンテーションには24名が参加。みなさん熱心に聞き入っていました。



発表された企画への質問や意見交換が活発に行われ、参加者の熱意が感じられました。

実施予定のプロジェクト

2.5architects + space845 「窓を開いて 風をまねく When the openings were open」

作品などを持ち込むことで表現することが多い中で、このプロジェクトは「素の進修館を見せる」「閉じている扉や窓をすべて開く」というものです。開け放たれた扉や窓からの風を感じたり、あとから持ち込まれたものを取り除いたりすることで、「徐々に隠されてしまった」「感じなくなってしまった」また造られた当初から「気づいていない」建物の魅力を発見する取り組みです。

■ 企画/ボランティア説明会

日にち：2024年10月12日(土)
時 間：13:00 より
場 所：進修館 研修室
参加費：無料
申込・問合せ：進修館まで

■ 進修館と一緒に「窓を開けてくれる」方を募集します！

「1つ1つの個性豊かな窓が全て開かれたとき、進修館ではどんな体験ができるのだろうか？」そんな疑問からはじまって、2.5 architectsとspace845がイベントを企画しました。協力いただけるボランティアを募集します。今まで見たことのない進修館の姿をみてみたい方、窓を開けてみたい方、ぜひご協力いただけましたらうれしいです。

小林桂子 (日本工業大学)

「ひかるふしぎなきものを探そう@進修館(仮)」

進修館の中には、じつは、ふしぎなきものたちが住んでいる…? 参加者と一緒に進修館内を探検し、色々なデザインの空間の中にある「ひかるふしぎなどうぶつ」を見つけて(想像して)簡単なアニメーションを制作し、実際に投影を行います。作品制作と投影は、カナダ・モントリオールでプロジェクトマッピングを使ったアート活動を行う「MAPP」のアーティスト2名の指導のもとで行います。開催予定時期：2025年1月～2月頃

チームへそ計画「へそたんけん2025」

2022年から進修館を会場に様々な表現者たちが集まり開催している、アートプロジェクト「へそたんけん」。進修館のコンセプトと場を活かした表現をすることで、進修館の多角的・多層的な魅力を多くの方と共有し、発信することを目指しています。作品展示・パフォーマンス・ワークショップなどを通じて、表現者が「自身の大切なもの」＝「へそ」を見せ合います。開催予定時期：2025年3月下旬

カンパニー・ヒュッゲアーティスト紹介 第3回 バリトン歌手 井上大聞さん

井上大聞さんは、ご自身の歌うことへの喜びが声を輝かせ、それが聴くものの心に深く響く、国内外で活躍する実力派バリトン歌手です。今回は井上さんに、進修館の印象を伺いました。

井上さんは現在、イタリアに拠点を置いて音楽活動を行っています。歌の道に進んだのは、小学生のころ、音楽の歌のテストの際、クラスメートが恥ずかしがって小さな声で歌っているのを「かっこよくないなあ」と感じ、思う存分歌ったところ、周囲から「井上君は歌が上手」とほめられたことがきっかけとのこと。もともとカラオケが好きで、母にねだって連れて行ってもらったりしていた子どもだったそうです。その後加入した合唱団でヨーロッパ演奏旅行に参加し、海外の音楽環境を体験した井上さんは、中学3年生の夏に「音楽高校に行く！」と決心し、猛勉強の末に合格。そのまま音楽の道へまい進します。東京芸術大学卒業後、新国立劇場オペラ研修所を経て、文化庁の新進芸術家会芸研修制度によりイタリアで音楽の勉強を深め、現在に至ります。

ます。その実力は国内外のコンテストでの多数の受賞歴が物語っています。

そんな井上さんにとっての進修館の印象は「はじめましてなんだけど、どこか懐かしい」。建物の独特さはあるが、急に和室があったり、木製の家具や掲示板のデザインなどが、どこか自分が通っていた小学校を彷彿とさせるとのこと。井上さんが出演した進修館でのコンサートはまだ2回ほどですが、みんなの憩いの場となっていて、いろんなジャンルの人が集まってなんでもできる、自分のまわりにはない素敵な温かい場所だと感じているとのことでした。

イタリアでは野外でのコンサートが日常的に開催され愛されていることもあり、進修館の芝生広場を見たとき、ここでコンサートを開催してみたい!と思ったそうです。また、この建物だからこそ、



オペラをやってみたい!進修館の客席は独特なので、例えばアリーナ席(階段席)側をステージにしてみたら面白そう、と話してくださいました。井上さんが話されると、なんだか本当に実現してしまいそう。歌への情熱が言葉の端々にあふれる井上さんが、また進修館で歌ってくださるのが、とても楽しみになりました。



井上大聞 (バリトン)

京都府出身。東京芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。
2023 第4回ベッパ・デ・トマーゾ国際声楽コンクール第一位及びバロック声楽賞
2024 第40回ピエロ・ポーニ国際声楽コンクール 第三位
2024 第2回ミルトン・マレリ国際声楽コンクール第一位(同率)及びブッチーニ特別賞
2024 第3回ジュディッタ・パスタ国際声楽コンクール 特別賞
2024 第1回テッレ・メディチェ国際声楽コンクール ロッシーニ特別賞
2024 第33回マッティア・パッティスティーニ国際声楽コンクール 第二位
など、近年だけでも国内外での受賞歴多数。

【カンパニーヒュッゲ共催事業】第1回 進修館ロビーコンサート ピアノリサイタル「大切な人と一緒に」

進修館では毎冬、社会福祉法人じりつとの共催事業としてキャンドルナイトを開催しています。「大切な人への感謝の気持ちを伝える」ことをテーマとしているこの催しは、感謝の言葉が書かれた手

作りのキャンドル約3000個が芝生広場をいっぱい輝かせる、宮代町の冬の風物詩となっています。このキャンドルナイト点灯前のひとときを、質の高い音楽でお過ごしいただけるロビーコンサート

を開催いたします。お子さまからご年配の方までお楽しみいただけるコンサートです。あなたの大切な人と、ぜひお越しください。

西村翔太郎 公式サイト



日 時：2024年12月14日(土) 14時開場 14時30分開演 / 場 所：2階ロビー
出 演：西村翔太郎 (ピアニスト、カンパニー ヒュッゲ メンバー)
参加費：前売…大人 1500円 中大学生 1000円 子ども (小学生以下) 500円
※ 当日は各300円増。大人が同伴する場合、子ども1人まで無料。
チケット販売・問合せ：進修館 窓口 ☎0480-33-3846 ✉info@shinsyukan.or.jp

まちの皆様インタビュー！

今回のインタビューは、宮代町在住の舞台女優・深谷由梨香さんです。深谷さんは、お子さんが通っていた幼稚園で出会った大人たちと2020年ごろから「劇団みんなのはらっぱ」を立ち上げ、その代表も務めています。中学生のころに授業で演劇に触れたのがきっかけで演劇の世界に入り、子育てを通じて人と関わることに深く興味を持ったという深谷さんにお話を伺いました。

【進修館と新しい村に魅せられて移住】

深谷さんは東京都出身。結婚を機に、夫の実家である幸手市で暮らし始めました。たまたま子どもと一緒に新しい村に遊びに行った時に、「新しい村と進修館の空気に一目ぼれをして『住んでみたい!』と思った」のがきっかけで、2018年に宮代町に引っ越ししてきました。越してきて間もなくコロナ禍となり、外出もままならない時期が続きましたが、そんな中、新しい村などの自然の中を散歩することで、さらに宮代町が好きになったそうです。宮代町には、緑豊かな風景や建築など、貴重なものが普通の生活に溶け込んでいる。遊園地までもが生活に溶け込んでいる。深谷さんはそうした渾然一体となっている空気感が大好きで、子どもが毎日見る風景として何よりもいい場所だと感じているそうです。



2023年夏に進修館で開催された「進修館をあそぼう」は、演じ手も観客も一体化してしまう不思議な時間となりました。作り上げる楽しさ、観る楽しさ、進修館の建物を味わう楽しさなど、楽しい要素が盛りだくさんの催しでした。

このコーナーでは、宮代町に在住・在勤・在学など宮代町に関わる方々にお話を伺っています。

【「進修館をあそぼう」】

宮代町に越してきて1～2年くらいたったころ、友人から「笠原小学校に関する演劇を作らないか」と誘われたのがきっかけで、宮代町について色々調べ始めたという深谷さん。その中で、町の歴史や初代町長齋藤甲馬氏の生涯にとっても興味を持ち、それを機に町の様々な人に話を聞き始めました。そして2023年夏、ご自身が集めた話をもとに、演劇のワークショップを通じて宮代町の歴史に関する演劇作品を完成させる、という企画に挑戦します。進修館全体をくまなく利用し、回遊しながら演じられたこの作品では、観客より出演者が多いという不思議なものになりましたが、演じ手として参加する人が作品を通じて次第に巻き込まれていき、フィナーレの会場となった芝生広場では、進修太鼓の勇壮な演奏の中で民俗舞踊連盟のメンバーも加わって宮代音頭を踊る大団円となりました。

【地元の人のお話を聞き作品にしていきたい】

深谷さんは現在、宮代町に暮らす「普通の人」の生活やエピソードを織り交ぜた作品をつくるという夢を持っているそうです。少しずつエピソードを集めていって、いずれは「宮代町ミュージカル」のようなものができたらいい、と目を輝かせていらしゃいました。また、11月4日に大ホールで行われる、沖縄県今帰仁村との文化交流イベント「北山（ほくざん）の風」や「い



「いつでも、どこでも、誰とでも演劇をしよう。」というスローガンを掲げ、楽しいことならなんでもやりたい、と活動している「劇団みんなのはらっぱ」。大人も子どもも楽しそうです。



「演劇では人の人生の一面だけを、短い時間で表現することしかできないのかも」という深谷さん。だからこそ、時間をかけて人とじっくり話し、多面的にその人を知りたい、と話してくださいました。

まじん太鼓」の公演にはとても興味を持っているとのこと。「子どもたちが地域の歴史を学びながら作品に取り組むということが素晴らしいと思う」と話していました。先日、盆踊りを見た外国人から、「これはなんだ?」と言われたことがあるそうで、その時踊り手に年配の人が多かったからか「高齢の人が踊る文化なのか?」と聞かれたことで、踊りの文化が若年層に伝えられていないと感じ、何かできないか?と思ったのだそうです。当たり前にも身の回りにある事柄や文化を、次の世代に伝えていきたい、そのためにも様々な人と話をしたい、という深谷さん。今後その思いがどのような作品になっていくのか、とても楽しみです。

インタビューした深谷さんも参加します！

参加者募集！ 宮代町民俗舞踊連盟といっしょに、今帰仁のみなさんを舞踊で歓迎しよう！

11月4日（月祝）に大ホールで開催される、「現代版組踊 北山の風 with 今帰仁子ども太鼓いまじん 公演」の会場で、宮代町民俗舞踊連盟のみなさんと「宮代音頭」「南中ソーラン」を踊って、今帰仁のみなさんを歓迎する舞踊チームのメンバーを募集します。参加いただける方は、公演チケットの割引があります。

※ 舞踊の練習会も開催します。是非ご参加ください！

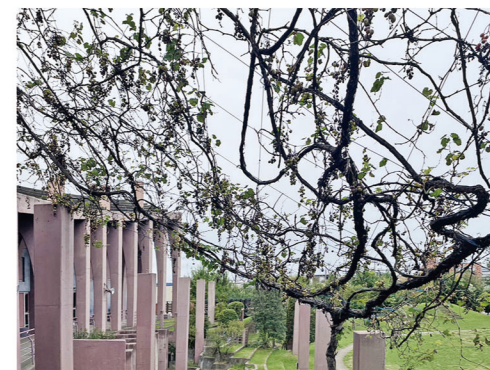
舞踊チーム練習会

日時：10月20日（日）14:30～16:30
場所：大ホール
参加費：無料
申込：進修館受付（〆切 10月10日）

教えて、田沼さん！「進修館のあんなこと、こんなこと」第3回

このコーナーでは、進修館の建設時に宮代町役場職員として関わった田沼繁雄さんに、当時のエピソードなどを伺います。

2024年の夏は、とにかく暑かった！進修館の建物に掛かるぶどう棚も、暑さのためか元気がありませんでした…。もう見慣れた風景になっているけれど、そもそもどうして進修館にはぶどう棚があるのだろうか？気になって調べてみると、象設計集団のみなさんは進修館を設計する際、その地域の特性を取り入れたことがわかりました。当時宮代町が埼玉県内でも有数な巨峰の産地だったことから、それがぶどう棚として表現されたのだということです。宮代町の特色をデザインに取り入れた建物が、その



酷暑のせいで、巨峰も夏バテしてしまったのでしょうか…。今年の進修館のぶどう棚は元気ありません。

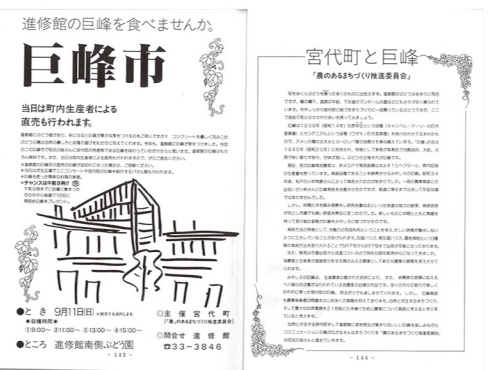
土地を代表する植物に覆われていく。長い時間をかけて建物が完成していく仕掛けが施されているなんて、やっぱり進修館はおもしろい！

そんなことを考えていると、宮代育ちの進修館スタッフが「わたし、子どものころ進修館でブドウ狩りをした記憶があるんですよ。ぶどうにちなんだイベントもやっていたような気がします。」と話してくれました。え？ぶどうのイベントって新しい村じゃないの？気になったので、田沼さんに聞いてみました。



進修館のアーカイブ資料の中には、農のあるまちづくりに関する資料がありました。「巨峰市」開催に至る経緯も記載されていました。

1994年、宮代町では地域資源をまちづくりに活かすことをテーマに役場職員メンバーで様々な議論を重ね、宮代町の中にある「農」を題材にした「農のあるまちづくり」プロジェクトがスタートしました。この中で、「進修館のぶどう棚にはお盆のころ巨峰が実をつけるけれど、それを活かさないか?」という意見が出され、「巨峰市」が開催されたのだそうです。町の巨峰組合にも声をかけて販売も行われ、大盛況だったとか。進修館スタッフの記憶にあったのは、この催しだったようです。



巨峰市では、進修館のぶどう棚での巨峰狩りが行われたようです。「進修館南側ぶどう園」と書かれるほど、当時は豊かに実っていたんですね。

「外」から再発見、進修館の魅力」第1回

このコーナーは、進修館でアルバイトしている日本工業大学の学生（地元は福島）が、町外から宮代町に越してきて感じた、進修館の魅力について語るコーナーです。



日本工業大学建築学科1年の浦山です。10月からは受付業務のほか、進修館だよりの記事作成もお手伝いさせていただきます。

みなさん、こんにちは！この度、進修館だよりにて新しく1コーナーを担当させていただくことになりました、日本工業大学建築学科1年の浦山と申します。今年の4月に大学進学のため、この宮代町に引っ越



宮代町に来て最初に進修館を認識した風景。第一印象は「なにこれ、すごい!」。初めて入ったルートは、芝生広場→ロビーでした。

してきて早半年が過ぎようとしています。おかげさまでこの町での日々はとても充実しており、毎日楽しく過ごしております。もともと日本工業大学に進学予定だった僕が最初に宮代町に訪れたのは、大学のオー

ブンキャンパスがきっかけとなります。その際に大学の教授とご縁があり、今僕はこちらの進修館にてアルバイトをしています。この進修館は建物自体の魅力や工夫もさることながら設計にまつわる素敵なエピソードもたくさんあります。しかし宮代町で生まれ育った方の中には、進修館は当たり前の見慣れた景色の一部すぎて、かえって進修館の持つ魅力がわかりづらいことも多々あると思います。そこでこのコーナーでは、宮代町に住んで間もない“外”から来た僕だからこそ気付いた進修館の魅力をお伝えしていけたらと思います。来月は進修館が出来るきっかけとなった出来事や進修館の魅力について、お話ししたいと思います。それでは、来月からよろしくお祈りします！